

第2回

新宿区次世代育成協議会・部会

平成21年7月30日(木)

新宿区子ども家庭部子ども家庭課

1 開会

事務局

資料確認

2 議題

(1)平成21年度 第1回次世代育成協議会・部会 論点の整理

福富部会長

皆様の机上にA4判で第1回次世代育成協議会・部会論点整理メモが配付されていると思うが、少しご説明させていただき、確認をしていきたいと思う。

前回の御議論を、全部で10程度にまとめた。

まず第1点は、「子どもの権利」に関して、権利の裏側に義務があるのではないのか。権利だけの問題ではなく、義務の問題についても、きちんと議論すべきという御提議がなされた。今後、子どもの権利という問題が具体に出てくるので、その中で議論を深めて対応したいと思う。

2番目だが、学童クラブに関して。サービスの充実というか、量的な拡充はなされているけれども、量の充実が先行する余り、継続性という問題について少し難点があるのではないのか。質的な問題も十分考えなければいけないという御意見があった。これについても、今後学童クラブの充実という問題の中で議論を深めたいと考えている。

3番目だが、学童クラブと放課後子どもひろばというのが最近展開されているわけだが、そのすみ分け方や連携について議論の必要があるということ。これは、子どもの過ごし方の選択肢が多様化していることを踏まえて、その中で議論をしていく必要があると、まとめさせていただいた。

4番目だが、区内で子どもたちが犯罪被害者となってしまうケースが一体どのくらいあるのか。実際に各地域で子どもの見守り、あるいは声掛け等々をなさっている地区が少なくないわけだが、その必要性は本当にあるのだろうか。PTAのパトロールなどが逆に過剰化してはいないだろうかという御提議があった。これについて調べてみた結果、新宿区の犯罪被害状況に関する具体の統計は、手に入れることができなかった。もう少し広い分野の中でデータがあるので、後ほどお示ししたいと考える。

5番目、「主な課題と方向」のまとめ方の問題で、具体的に家庭・地域・学校といった役

割ごとに分類・整理することも考えられるのではないのかという御意見をいただいた。これも後ほど議論していただく中で、計画全体の構成上の問題として考えていきたいと思う。

それから、特別支援を要する子どもの家庭への支援という問題があるが、疾病や障害がある保護者等に対する支援の必要性があるのではないのかという御提案があった。保護者に対する支援、あるいは区民一般への支援という形では、新宿区全体の総合計画、あるいは障害者計画というのが机上に配付されていると思うが、その中にこの問題が含まれている。したがって、この計画では、具体的に特化するより、全体的な子どもに対する対応で扱うのが、この部会での守備範囲ではないかと思っている。

7番目だが、学校の現場に対して、この協議・検討内容をフィードバックして欲しいという要望、御意見があった。部会の中に教育委員会の職員の方に出席していただければ、間接的ではあるが対応できるかと思う。

8番目、数値目標。高い目標で区が苦勞するのではないのかという御意見、高い目標を掲げることで、もっと踏み込んだ取り組みに繋がっていく効果があるという御意見、いろいろな御意見が出た。これについては、調査の結果をもう少し細かく分析することによって、さらに議論が深まるのではないのかと考えている。

9番目だが、子どもの虐待防止。これは第2期の本協議会・部会での取り組みでもあり、「提言に沿った取り組みの充実が求められている」とある。第2期の部会では、区民の役割を議論してきた。しかし、潜在的な区民の力を活用しきれていない現状がある。区民の役割や地域力の活用、区民の自主性を掘り起こす必要を計画に明記すべきだという御意見。身近なところに区民の活躍できる場があることも必要であると。確かに、提言の中に子育て支援の人材育成とネットワークづくりで、支援したい人を支援できる人という提言をした。今後実際に、潜在的な区民の力を具体的に活用できる施策が可能なのかというところが、議論の一つのポイントではないかと考えている。

最後だが、後期計画では4つのビジョンを掲げているが、「安全・安心」は大切な項目でビジョンに是非入れるべきではないのかという御意見。ビジョンは将来のまちの姿を描いたもので、その根底には、当然「安全・安心」が含まれているべきだと思う。

実際に、目標を後ほど御議論いただくが、「目標4」の中に「安心できる子育て環境をつくります」という具体の項目、目標が挙げられていて、その中で「安全・安心」という問題は、深めていくことが可能ではないかと考える。

以上、全体を御議論いただいた内容について、整理をさせていただき、今後どう対応して

いくつか方向性も少し明示させていただいた。非常に雑駁な説明で御理解を十分にできなかったのかもしれないが、御質問を。

委員

今のところで「学童クラブ」という表現があるけれども、私が言った意味は学童クラブだけではなく、「児童館・学童クラブ」という意味である。児童館は一般の子たちが当然来られる場所としての児童館。その中に多くの学童クラブがあるので、セットでという意味なので、そこだけ申し上げておく。

福富部会長

わかりました。どこか具体的に文言化されるわけではないので、この「学童クラブ」というのは、皆さんそのように読み解いていただければと思う。

前回発言はしなかったが、あらためてまとめてみると、こんなところが必要ではないか、という意見を持ったという方があれば何でもお願いしたい。

事務局

今日お配りしている「協働事業提案制度による19年度実施事業のご紹介」と「NPO活動資金助成事業のご案内」は、前回の御意見の区民の方の地域力の活用や、区民の自主性を掘り起こすという意味の事業の取り組み、これだけではないが、大きなものとして、このような事業があるということで、資料を提供させていただいた。

教育とのかかわりでは、今日は教育政策課長が出席しているので、教育の論議についても直接ここで受け止めるという体制を整えたことを、御報告させていただく。

委員

今の御説明の確認だが、前回いただいた資料の後期計画骨子イメージの中にあった、地域との協働推進計画と呼ばれるものは、計画書というか、何か文章としてあるのか。

事務局

今、手元にはないが、今後、新宿区が協働を進めていく上でのポイントをまとめたものがあり、平成12年頃に策定している。資料としてお渡しする分はないが、後で見いただくことはできる。

福富部会長

4番目について、補足的な説明をさせていただくと、実際に特に新宿区では、各地区でいろいろパトロール、あるいは見守りについて大変熱心に展開されている。それがどのくらい子どもの犯罪に対する抑止力になっているのか、具体的な統計的なものがないだろうか。なか

なかこれは難しい。実際に犯罪の資料になると、これは少年法の改正をめぐっての、ここ数年の議論も皆さん御案内かと思うが、果たして本当に子どもの犯罪が増えているのか、あるいは低年齢化しているのかをめぐっては、警察でまとめている資料、統計がある。けれども、具体的に事件として浮かび上がったものを拾ってきている統計である。しかし、よく言われているように、子どもの犯罪が何か一つあると、裏側には犯罪に至らないまでのいろんな問題が起こっていることがある。

例えばちょっと声を掛けられるとか、「いいものを買ってあげる」とか、犯罪に至らないまでのケースがたくさんある。それはずっと放置しておく、実際に犯罪に至るケースもある。拉致という問題になったり、子どもに対する性的な犯罪を起こすとかいろんな問題、その前の段階では、いろいろな現象がある。つかみ切れないのが、特に犯罪の問題で、すごく難しいところである。

実際に子どもに対する見守り行動は、いろんな犯罪の未然の抑止力にはなっていることを私は確信している。ただし、過剰になってしまうことは、気をつけなければいけないし、前回の協議会でも、懸念というか強調してきた。例えば地域で子どもの虐待について、お互いに疑心暗鬼で、互いに監視し合う新宿区というのは、余り好ましい区ではないと思う。みんなが犯罪を思い過ぎると、行き過ぎたことになってしまう。ただ、日常的なところで声を掛けるとか、地域で見守る、そういう土壌を作ることは、とても重要なことだと思う。

実際に子どもたちが過ごす場は、多々ある。先ほどの児童館、学童クラブもあり、そして最近では放課後子どもひろば、いろんなところで子どもたちは過ごしている。登下校だけではなくて、登下校が終わってから子どもたちが過ごす時間は多い。その時間を区民が、どうフォローできるかが問題になると思っている。大変重要な御指摘であったと思う。

委員

この間の発言は、言葉足らずかなと思ったので申し上げる。私は今、小学校PTAの役員もやっている。見守りや、地域の方と連携しての見守りの活動が、PTA活動の中に週1回ぐらい入っている。今のPTAは主婦の方が中心で、自営業の男性の会長がいる構成である。その状態で見守りを強化することは、PTAの母親や主婦の方たちというのは、パトロールばかりにかり出されることになる。

だから、それをするなというのではなくて、今言われたとおり子どもは誰と付き合っているか、どんな遊びをしているのか、どこで遊んでいるかを、親がもう少し知ることが、大事ではないかと思っている。

例えば学童クラブの親というのは、昼間は子どもが何をしているか、分からないわけである。多分、牛込の地域で最初に安全マップを作ったのは、薬王寺の学童クラブが最初だと思う。その時に何をしたかという、普通の日に遊ぶことは出来ないけれども、子どもさんが何処で何をして遊んでいるか、例えば路地裏で、暗そうな所で遊んでいるとか、自分の子どもを知った上で、土曜日とか日曜日とかに一緒に行って、ちょっと怖そうなところを挙げてみようという取り組みをした。このように親が子どもの行動を知ることとセットになって、少し子どもと話し合いが出来ることに繋がるのであればいいけれども、今はパトロールすればという失礼だけれども、パトロールばかりにかり出されているような状態がある。本音を出すと役員とかは、非常に負担感を持っている状態がある。

何かうまく言えないけれども、そういう接点になるようなものを作れないかなと思う。

事務局

先ほどの委員へのお答えが、不正確だったので訂正したい。

地域との協働推進計画は16年3月に策定されている。前期計画の66ページに触れているので、御参考にしてほしい。

委員

さっきの御意見に対してだが、PTAがいろんな仕事の負担感を抱えていることは、昨今の大きな問題になっている。特に、男性の方、自営の方は景気の悪化もあり、ボランティアに参加できる機会が減っている感じを持っている。

そういった中で、誰がどんな形で学校行事、社会に対して貢献できるかを、我々の中でも話し合っている。その中の一つに、地域のパトロールが含まれていると思う。先ほどの小学校の地区でいうと、私も会長と話をするのだけれども、パトロールの話をよくされる。すごくパトロールしていると感じると共に、私の地区の学校は、割合にパトロールに無関心である。やっている学校はどちらかという、ないのかな。平和過ぎるといふか、私から見ると平和ぼけしていると、いつも言うのだけれども、他校さんを見ると、パトロールを一生懸命やっていて、パトロールすることはどういうことなのかと考えた時に、おっしゃられた抑止効果が一番に挙げられる。もう一つは、いろんな方がその場で、話をすることにより、一つのコミュニティーが生まれると思う。そのコミュニティーから子育てに関することであったり、子どもの安全・安心に関することであったり、話題が出てくると思う。だから、無理に出て来いと言う必要はないと思が、止めるよりは続けたほうが、私はいいと思う。

先ほどのプリントの下の方に書いてある、「支援したい人を支援できる人」というところ

に繋がってくると感じている。

福富部会長

私の経験で申し上げますと、大阪教育大学の池田小学校で大変悲惨な事件が起こった。学校は、本来安全でなければならない。学校は安全な場であると、少なくとも私どもは信じていた。ところが、あの事件以来、学校と言えども、必ずしも安全ではなくなってしまった。

当時、私は附属の校長をやっていた。玄関が開く時間は決まっていたが、子どもたちは遠くから通ってくる附属だから、その前に登校して玄関前で待っている。大学は、ガードマンを用意してくれたが、ガードマンも時間があって、ガードマンが来る前に、子どもたちは来てしまう。「来ちゃいけない」とは言いがたい、何度か「時間どおりに来なさい」と指導するが、来てしまう。そこで、学校は嫌いでも来てくれる子どもの気持ちをと、私はその子どもたちを朝、校長として出迎えようと決心した。

最初は「出迎える」ということが目的で、犯罪を少しでも防ぐという動機だった。ところが、出迎えた子どもたちと時間が許す限り喋ることになって、それがとても楽しくなった。そうこうするうちに、出迎えよりも子どもたちと会話をするのが楽しくなってしまった経験がある。これもひとつ、今のお話に通じるのかなと。

パトロールすることは、パトロール自体が目的だと、辛いところがあるのだろうけれども、それを通して、何か違った発想の転換だってあり得るだろう。子どもたちとの日常的なかわりも出来るだろうし、パトロールを通してメンバーたちのコミュニケーションも広がっていく。それが地域の和に繋がっていく、そういう副次的な効果もあると思う。

子どもに対するかわりというのとは、何かをする以上に輪が広がっていくと考えると、発想の転換も少しできるのかなと、当時考えた。実は、その頃かわっていた子どもたちと、今でもやりとりが続いている。ついこの間も成人になって、校長を辞めて何年もあるが「校長先生、成人になったから飲み連れてってくれ」と言う、子どもたちにまで成長しているのは、子どもたちにも何か大人のもの伝わったのかなという気がしている。

田中委員

今の関連した流れで、私も思い付くことがある。

うちのPTAに限らず、私の地区は比較的安全だという話があったが、「顔を出そう」ということを掲げている。特に何かパトロールをする、見守りをお祭りの時にする、ということではなく、例えばPTA会報の中に名前だけではなく、必ず役員さんの顔写真を入れる。それを御父兄の皆さん、御家庭に浸透していけば、ああ、この人見たことあると。

例えば私だったら近所の公園でたばこを吸っていると「会長、たばこ吸うなよ」と言われる。「いいじゃん」とか話をする。そこで、さっき先生が言われたように周りに生徒が集まって来て、そこで話が始まると。そうこうしているうちに、今度は買い物から帰ってきた他の役員のお母さんが入ってきて、井戸端会議のようになっていくと。

公園というところに、顔を出す、露出をするということは、多分、子どもにとっての抑止力になっているのではないかと思う。上から「私たちはPTAなんだから」という態度でいると反発が来る。ところが、こちらのほうからの垣根を下げて「何か変な会長がいるよ」というようなキャラクターを一個作って、顔を露出することを心がけている。

また、各中学校、小学校に吹奏楽の指導で、何校か回っている。できるだけ子どもと一緒に演奏する。一緒に何かをやる機会を、作るようにしている。すると話が広がって、本当に知らない、他の学校の生徒が道で呼んでくれる。これが抑止力になっていくのではないか。

また、私に限らず、会長とかがメインになってしまうが、できるだけいろんな委員、みんなで作っているという顔が、何かホームページに載っていて、生徒、子どもたちが見たということで、うちの周りでは非常に効果、功を奏したと。今までPTA会報は役員だけだったのを、いろんな委員さんまで顔を載せさせていただいて、効果が出たかなという実感が一つある。

それと、2つ目に先生が言われた二十歳になって飲みに行きましょうというのは、私もある。ある学校で吹奏楽指導を初めてもう10年近くになるのだが、成人した子たちが、まさにそういう感じで出てくる。その子たちを活かせないかなと。そこに支援したい人、恐らくOBの子どもたちというのは、懐かしの学校だけれども、もう1回行って見たが、遠慮しているところがある。また、娘の上の子が高3で下は中3だが、出身小学校に「今度演奏会やるから一緒に行こうよ」と誘うと、「何か恥ずかしいよ」と。ここを救えないかなと。保護者というのは、何も親だけではなく、お兄さん、青年期というか社会人、若い子たちも含まれているのではないか。卒業した学校に来ていいという雰囲気を作ってあげると、よりいいんじゃないか。そのために、卒業生をちょっとちやほやさせてあげると子どもたちは来るのじゃないかと。

この2点である。長々とすまない、よろしく願います。

委員

関連だが、区民会議はもう3年だろうか、基本構想見直しで、いろんな部会があって、その時も「子育て、教育、青少年」という分科会の中にいた。最終的に全体でまとめた提案の

中間報告と、最終書面で区長に出すのをやった。さっきのちょっと上のお兄さんという構想の話が、その時も出ていた。常にちょっと上ずつというのか、中学生は小学校にとってはちょっと上、中学校から高校はちょっと上で、さらに大学生も全部、そういう時期というのはあるよねと。そのこの所をリンクできる方法はないのか。ただ、区の管轄はどうしても中学までで、高校は都になってしまう。でも、本当は中学と高校という中でいくと、関係性も持てると理想だろうなと。ある意味、持続可能な循環型の、人も循環できる、お互いに助けられて助けてみたいなのが出来ると、もっと広いビジョンで考えた施策が要するという話をしていた。

委員

さらに関連で話させてもらうが、私はNPOの「みんなのおうち」という代表もしている。私が直接やっているわけではないけれど、外国籍の子どもたちの夜の居場所と学科指導みたいなものもやっている。

その中で、今高校生になっている子たちが居る。外国から来た子たちというのは、例えば数学とか英語というのは非常にできる子がいっぱい居る。しかし、日本語で書かれた問題が読めない。こういう現実があって、高校になかなか行けない状態がある。だから、教科と共に日本語を教えながら、どう受からせるかということで、一生懸命高校に通ったりして、かなりの子が高校に行けた。その子たちが、応援してもらったおかげで高校に行けたので、僕たちも時間を作って、遊びも半分だろうけれども、応援にも来るよと言ってきていて、ぼつぼつ来ていると聞いている。

新宿の中でも、特殊な一つの課題だけれども、外国籍の子どもたちが応援を受け、そのことに感謝の気持ちを持って、自分の後輩のいろんな事情を抱えて日本にいる外国籍の子たちを応援に来ることは、もう少し広がっていくと、いい感じに進んで行くんじゃないかと思っている。

それと同時に、「ゆったりーの」という所で、支援者養成講座をやっている。これも私は運営委員で、直接はかかわっていないんだが、こういうのも、どういう方向でどんな応援が必要なのかを勉強しないと、自分は応援したいんだと思っても、応援される側の人にとってみると圧迫感があるというか、土足で踏み込まれることになることもあり得る。だから、「循環型」とか「市民が市民を応援する」とか、非常に言葉は優しいけれども、ボランティアを募集する時に、非常に難しいのはそういうことがある。

事例として言うと、ある方が来て、この子の親は日本の何処でどうして、どんな勤めをし

ている、お母さんは何処の人で、その家庭環境はどうなっているのか、ということをお先に教えてくれという方が来た。それを知らないと思えないと思っている、という話だった。相談した結果、断ろうという話にした。何故かと言うと、外国籍の子どもたちは、正々堂々と自分の家庭を言えるような状況にはない。家に居場所がない状態がある。だから、家のことは余り言いたくない。例えば親に連れられて無理矢理日本に来たということは、絶対自分では嫌なこと。親に対することでもあるし、それはどうにもできないことだから言いたくない。しかし、そういう気持ちを応援する中で、その人が聞き出していける。根掘り葉掘り聞くんじゃなくて、友達になって、「実はこんな悩みがあるんだよ」と子どもから言ってくれるまで、スタッフは待たなきゃいけない。そういう気持ちを持てる人しか、ボランティアといえども、採用できない。

ただ、先ほど言われたような、高校生とかが後輩を応援する機会だとか、一緒に交流するだとか、それは運動会でもいいんじゃないかと思う。地域運動会でもいいと思うんだけど、お兄ちゃんたちとかお姉ちゃんたちはこんなにすごいんだ、みたいなものを感じさせるような機会があることは、非常にいいんじゃないかと思う。

委員

今までの話を聞いて、頭出しを2つする。1つは、私が思ったことを申し上げる。それから2つ目は、教えていただきたいことがある。

まず1つ目の思ったことは、お二人のお話を聞いていて、やはりパトロールの大切さ、重要性、必要性は十分分かった。また、苦勞もしていることも承知している。そこで大事なことは、やはり子が親のこと、親が子どものことをよく知らなかったら育成はできないだろうと、このように思う。しかしながら、考えてみると、同年代あるいは自分の親よりは少し年が離れていたり、親しみのある違う他人のほうが話しやすい場合もあるのではないかと、私は思った。

そこで、2点目の教えてもらいたいことだが、今までに親御さんたちがパトロールしているのに、高齢者を活用した例はあるのか。また、これからも高齢者は多くなるわけだから、時間はかなりあるはずである。だから場合によっては、PRをしたり、協力をさせていただくというような持って行き方も大事ではないかと考えた。もし例があったら、教えていただきたいと思う。

委員

新宿区は10カ所の特別出張所の中に、地区協議会というのがあるはずだ。少なくとも私の

出張所地区の中には地区協議会があって、「安全・安心部会」というのと、「まちの将来像」という部会がある。だから、今の論点整理メモの10番に関しては、そちらのほうが似ている。

もう一つ、時間をとって申しわけないが、育成協議会の中の安全・安心という会議があり、それから地区協議会の安全・安心という会議があり、変な話、行政の特徴である縦割りになっている。両方同じものを目的としているわけだから、ちょっと考えていったらいいかなと思う。それで、質問の安全・安心のことだけれども、メンバーとしては結構「いい年」の人が、メンバーになっている。

委員

私は10番でなく、9番の「今後、区民の力の活用について議論を深める」ということがあったわけだが、今までにそういうことがされたのかどうか、またされていたとすれば、どの程度、内容はどうだったのか、それを聞きたかった。それから仮になかったとするならば、これからそういう発想、着想を持って進められるのかどうかを併せてお聞きしたかったわけである。

委員

今までという形でいえば、私の地区のことだけしか分からないので、それ以外のことは申し上げられないが、安全・安心という形で、具体的な年月はちょっとわからないけれども、三、四年ぐらい前から地区協議会は立ち上がっている。

それから、その中で地域のパトロールもあるし、地域の中で、ここら辺が子どもたちには危ないという所のリストアップもしている。

そしてあともう一つ、壁の落書きをペンキで消して、落書きの跡を消したというのも、その活動の中の一つとしてやったことがある。以上である。

(2) 施策の体系について

福富部会長

これからの議論は、具体の構想づくりの中で、幾らでも議論できると思う。その中で少し議論を深めることにして、もう一つの議題である2番目の協議事項、新宿区の次世代育成支援計画の具体的な体系(案)、この中で具体的に文言整理、足りないところも含めて、少し検討したい。

幾つか前期計画の構造が、大きく変更されている。大きな変更というのは、「目標4」と

「目標5」をまとめて一本にした。それから、家事と仕事というものの両立をも含めて、ワークライフのバランスという問題、それが一つのくりとして独立したという大きな構造の変化がある。その構造の変化がどうなされていたのかも含めて、御議論、御意見をいただきたいと思う。何度も事務局からも説明があったところなので、これについての説明はよろしいか。御意見をいただければと思う。

一つは新しい言葉、文言、表現の仕方も、従来と少し変わっている。例えば「目標1 子どもの生きる力と豊かな心を育てます」、ここは目標の言葉はいいが、その具体の中身で、「目標1-1」の「子どもの権利を大切にする取組みの充実」が、「すべての子どもが大切にされる社会のために」とか、言葉が変化している。こういう言葉の変化が果たしていいのか。親しみやすいということは分かるけれども、それによって大事な言葉の中に含まれている意味合いが抜けるとか、懸念される問題はあるかと思うが、そのあたりも含めて、御意見をいただきたい。

委員

今これから具体的な案を考える上で、地図が欲しいと思った。

子どもに関係するところの、地図とか、こういうことをやっている、その下にできれば資料として、例えば育成会とはこういうものだとか、民生委員はこんな人がいる、保護司はこんなことをしている、学童クラブって何みたいなの。PTAは大体皆さん御存じだと思うんだけど、そういうようなものがそれぞれあると、ちょっとたたき台になるんじゃないかなと思う。事務局の皆様にはお仕事を増やして申し訳ないけれども、一つ考慮いただきたいと思う。

事務局

子どもの施設を落とし込んでいる地図は、幾つかのバージョンがある。例えば保育園なら保育園をプロットしたものというふうな、あとは民生委員さんが地域で、こんな活動をしているとか、それぞれである。けれども、現状を知っていただくという意味では、御用意できるものはしたいと思う。

福富部会長

施設を何もかも載せるとなると、かえって地図が地図でなくなって煩雑になってしまうのではないか。

委員

新しい便利帳に入っていなかったか。あれは民間の出版社、あの時にそこにもかんでいた

んだが、地図とかそういう使う人のニーズで、大体例えば学齢期だったら学齢期に必要な情報とか、子育て期だったら子育て期に知りたい情報とかあるじゃないかみたいな話も結構あって、それを地図に入れたほうがいいよねみたいな話はされていた。実際に載っているかどうかは、定かではないので、それをチェックするのが一つと。

あとは、学齢期は多分入っていないと思うけれども、子育て期に関して言えば出産のときにそういうものを配っているのではないかと。支援のメニューであったり、区内にはこんな施設があって使えるみたいな、新宿区は配っていなかったか。「子育てガイドブック」みたいな、そこにもきっと地図は入っている。学齢期、小中学校のときには、小中学校向けの情報がまとめられたものがあるかどうかは、私はそれに関しては分からないけれども、接点があって思いつくものを挙げてみた。

福富部会長

どんなに用意しても、届かない人にとっては無いことになる。必要な情報を必要な人に、どれだけ伝えるか、必要な情報にアクセスできるかに関わる問題である。

事務局

情報の発信は、前期計画を作る時も大きな課題で、この間大分改善を図ってきた。先ほど委員が御紹介くださったのは、多分「いいばんびーに」という冊子だと思うが、それは出生届を出されたときに窓口で配ることで、お子さんを持っている世代の方に情報が伝わるようにということをやった。それが前期の協議会の中で、生まれる前の情報もあるよねというお話があったので、現在は母子手帳をとりに来た方、その段階でお配りするようにしている。あと転居届を出された時にもお渡しするように、改善を図っている。だが、まだ十分ではないところはあると思う。こちらのメンバーの方は現在、小さいお子さんを持っていらっしゃるということでなければ、触れたことがないと思うので、資料として全て網羅ということではないが、コンパクトにまとまったものを探す努力はしたい。

委員

2点お話ししたいと思う。施策の体系(案)のところだが、一つは「後期計画への移行状況」の下に「子どもの権利」という表現がある。そこでお話ししたいのは、今までも権利に対する反意語ではないけれども、義務のことがあった。義務というと、少しきつい感じがする。そこで、責務ということをし少し子どもたちにも持たせるような育成をしていくべきではないかというのが1点である。

それから、2点目だけでも、聞き違いがあったのかもしれないけれども、「目標1」に

ついて、後期計画のほうが表現として抽象的過ぎるような感じがする。もう少し具体的に分かりやすくしていただくといいのかなと思う。

例えば「目標2 - 1 生きる力を育てよう」と、これは分かる。しかしながら、「目標3 心とからだの栄養素 「遊び」」は、中身がよく分からない感じがする。だから、どちらかというと、前期のほうが後期よりは具体的に書かれているなど。今回は後期を検討するのだから、もう少し細かいことまで、具体的に触れていただくと、より検討しやすかったと思う。その辺いかがか。

それからもう1点申し上げると、これは「目標2」に入るかどうか分からないが、食べること、食育のことも非常に大事ではないかと思う。食育のこともどこかに触れていれば、いいのだけれど。

委員

食については、「目標1 - 5」に。

委員

分かった。では、それは撤回する。

2点ほど申し上げた。義務に対する反意語ではないけれども、責務あたりはいかがだろうかということ。後期計画の案については、もう少し具体的に書いていただくと、より検討しやすいのかなと思う。

委員

これはあくまでもたたき台だから、これをこのように変えたらいかがかと具体的な提案をして、後期計画「案」が取れる形になるので、そのようにおっしゃっていただいたほうが、より具体的だろうと私は思う。これが前よりも非常に簡略化されていてとか、難しくなるとおっしゃるけれども、これはこういうふうにしたらいかがかという提案をするのが、部会とお考えいただいたほうがいいかなと私は思う。その辺はいかがか。

委員

さっきちょっと言われたけれども、例えば「遊び」のことで、最初に出ている左側のところの内容というのは、ある意味、器というか場所というか、質のことではないと私は思う。それが、より質として、例えば子どもたちを育てる栄養素の一つとして「遊び」が大事じゃないか、その質のことについて、今回は少し展開されようとしていること自体は、私は非常に意味があると思っている。

というのは、例えば昔に比べて集団遊びが児童館とか学童クラブの単位で、減っている状

態に私はあると思っている。昔は普通にあったSケンとかが、児童館で行われていない現状が出て来ている。いろんな要素があると思うけれども、例えばそういうものを再生しましょう。ぜひお願いしたいという話をこちらからして、行政のほうでもスキルアップのための講習会を既に開いていただいている。だから、年配の方はできるけれども、若い人たちは経験をしたことがないから、集団遊びといってもよくわからない人も実際、指導員でいる。だから、そういう方たちに伝えていくというのは新宿区の課題でもあると思うし、子どもたちにとって意味があると思う。

だから、ここでは、大きなくくりとして「遊び」を大事にしようと言っているのだと思うので、具体的なことは、これに附随して後で出てくると思う。ただ、こういうくくりというイメージで体系を考えるので、いいかどうかということ、まず話し合おうということだと思ふ。

委員

そうすると、お話になっているのは、ここは総論的なことだと、こういう理解でよろしいのか。各論はこれからだと、こういう理解でよろしいのか。

福富部会長

総論と言えは総論だけれども、各論と言えは各論である。というのは構造、こういう施策を考える上で、例えばこの「目標1」でいうと、「目標1 - 1 すべての子どもが大切にされる社会」、これはもうスローガン。それがあって、具体的にはこの中に生きる力をつくらう、それには具体的にどんなことがあるのかということは、今度施策の中にある。それからもう一つは、子どもの生きる力と豊かな心ということは、「遊び」と「文化」と「食」という3つの要素の中でこれから考えていこうと。それについては、具体的に遊びに関しては児童館云々とか、具体の施策がずっと以下にぶら下がってくるステージというように読み込んでいく。

したがって、こここの場は、ここで言う「目標1 - 1、 - 2、 - 3、 - 4、 - 5」とあるけれども、こういうようなくくりで、何か漏れはないのか。ちょっと違う表現のほうが、よりフィットするのではないのかという御議論をいただければありがたいと思う。

委員

私自身がチェックをするためにいろいろなものを見比べて、毎回出るときにざっと見ているのだが、御提案なんだけれども、新宿区次世代育成支援計画、後期計画骨子案、前期との比較という資料があり、一番右側に、後期計画の18の施策について、施策に相当する事業が

載っている。

確かに「遊び」とか「食」とか出ていて、抽象的なので、これは一体どこまでカバーをしているのだというところを確認するために、私自身も見ているのは、ここの事業の例示という部分になる。そこで「あれ、ないけれども、どこに入っているの」みたいなことだったり、「何でこれはここにあるの」というものを確認するには、使いやすいかなと思って、もう1回お話しした。以上である。

福富部会長

当初は、その資料で検討を進めようと思っていたが、前期の体系から後期の体系に変わる前に、中間のプロセスが分かりやすい資料がよいだらうと、前回配布されたA3版の資料が作られた。

事務局

議論の中で抽象的な言葉と、御指摘いただいているが、何がどう移ったということがなかなか分かりづらいので、前期計画の言葉でまず置きかえて、一番右側のようにしたらどうだろうか。真ん中のような表現が分かりやすいという御意見であれば、それを一番右にと考える。こだわっている訳ではない、新しい試みとしてどうか御議論いただきたい。

福富部会長

例えば「遊び」「文化・芸術」「食」というくくりをすると、何か抜けてしまうみたいなものがあるか。

委員

このまさに「食」のところだけけれど、母子保健というか、離乳食とか「もぐもぐごっくん」というような事業が、「目標2 健やかな子育て」じゃなくて、「目標1」として移ったところが、違和感を感じている。「目標1」に入れたほうがいいと思われたところをお聞かせいただきたいのが1点である。

それと、今の議論は、「目標1」だけに限定したほうがいいか。

福富部会長

ちょっと、今のところは「目標1」について検討したい。

委員

分かった。それだけまずお聞きしたい。

福富部会長

今の御意見だと、「食」に関しては、前のところで言うと、むしろ親子関係、「親と子の

健康づくりの」の中からでてきたのか。

委員

子どもの食育のところだと分かるんだけど、例えば自分で判断ができる前の乳幼児の段階での歯のことだったりとか、離乳食のことだったりとかというのが、「目標2」ではなくて「目標1」に行っているのがどうしてかと。

福富部会長

だから、「目標1」に行くことによって、「目標2」の中であった部分が、曖昧になってしまうか。

委員

元々あったものから別にして上に行ったというのは、何か意図があって分けられたと思うので、まずは理由をお聞きして、考えようと思った。

委員

「目標1 - 2」というのは、子どもの自立という部分でのことかと思う。

委員

だとすると、とても厳しいと言うか、離乳食を自立というところでくくっていいのかどうか、すごく違和感がある。結局被っているので、親子で一緒になって、どうなのだろうか。

事務局

横長の右側の事業の例示だけでも、ちょっと仮置きをしているものである。当然親と子の健康づくりのところでも、重要な事業だと思っている。例えば「目標1」のほうの「食」でも掲載して、「目標2」でも持ってくることも可能だし、「目標2」だけで整理をすればいいのではないかということであれば、そのようにも出来る。

福富部会長

今の委員の懸念は、例えば「目標2 健やかな子育てを応援します」の「乳幼児の健やかな発達支援」に、くくられてくると言うことか。

委員

そう思っていたが、今これはとりあえず仮だから、余りこだわらないでいいと言われたので分かった。何故そういう発言をしたかと言うと、分けられているところに離乳食講習会という「目標1」の施策の中の事業例として挙げていたので、何か意図があって、この上に一緒にされているのかと思って、聞いただけである。

福富部会長

これはちょっと仮置きなので、いいか。

他に、今の一連の乳幼児の問題が出てきたが、一番子育て中の方、御意見あれば。

委員

今のところ納得している。

委員

体力の増強とか増進は、何処に入るのか。体力というのは「遊び」、「目標1 - 3」に入るのか。

福富部会長

「目標1 - 2 生きる力を育てよう」ではないか。

委員

「遊び」の中にも当然入るのではないか。

福富部会長

もっと広くではないか。具体は「遊び」を通して体力を作り、「生きる力」を作っていくということ。

委員

そうすると、「遊び」「生きる力」、非常に分からない面が出てくる。先ほどの委員も、お話になったけれども、区の事業にかかわりある人はもう承知しているが、この計画というのは、多くの区民が見るわけだろう。やはり区民がうまく理解できないようでは、調子が悪いと私は思う。そういう意味で、分かりやすく、分かりやすく、こういうお願いをし、発言をしたつもりだが。

委員

関連なのだが、実は最初に私が持った印象と、多分同じ感覚で疑問を投げ掛けていらっしゃるんじゃないかと思う。「生きる力」はすごく抽象的で、いろんなものを含んでいる。下に栄養素といって「遊び」「文化・芸術」「食」に、あえて3つに分けられている。ぱっとこれを最初に見たときに、今「体力」とおっしゃったけれども、いわゆる知恵というところの「知力」はどこに入っているのかと思った。多分この2番の「生きる力」の所に入れているんだろうなと想像した。そこに全部学校関係の、いろんな教育の現場が入るのだろうなと想像した。だとすると、この下の3つを「心とからだの栄養素」という言葉で、「生きる力」と分けたということが不思議な感じがすごくして、同列になるものとならないものが混在しているような違和感を、私は感じた。

そういうふうな御発言で、例えば知力、気力、体力みたいな感じでの分類であれば、これはここに入っているのねと分かりやすいけれども、ということじゃないかなと思って。

福富部会長

配布した教育ビジョンを見ていただきたい。3つの柱というのがある。その1番が子どもの一人一人の生きる力を育む質の高い学校教育の実現。その具体の中身というのは、学力、心と健やかな体づくり、言語・体験活動の充実、就学前教育の充実、連携教育などである。

このうち、1、2、3あたりが「生きる力」を具体的に育むための区で考えている教育の内容ということになっていて、先ほどからいろいろ出てきている体力というのは、ここで言う、恐らく2の「健やかな体づくり」ということである。大きく言うと、「生きる力」を育てている一つの要素と位置付けられている。

ただ、知力、体力云々というのは、それは一つのカテゴリーであって、それが絶対では無い訳で、「生きる力」というのも実はこれだけかということ、御議論があるところで、かつて文科省が“生きる力を”という形で総合的な学習云々というところに行ったけれども、最近、そんなことよりも学力をなんという、今の訳の分からない教育になっている。だから、言葉というのは、何かすごく、そういう重構造になっているなということである。

他に何か、先ほどここに限って、委員の発言を止めてしまったけれども、これに限らずということでおっしゃりたかったことがあるのではないかな。

委員

「目標3」のところだけでも、ちょっと言葉のニュアンスというか、書いている意味合いを教えてください。「目標3 - 1 子育て支援サービスはトータルコーディネートで」、「目標3 - 1 - 相談からコーディネートへ」と書かれている。このトータルコーディネートというのは、具体的に言うと区の職員がもっとするという意味合いの文言か。この意味するところを確認したいので、最初に質問したい。

事務局

区の計画なので、まずは区が担うべき責任というところで一つあると考えている。その他に区だけではできない、地域の皆様の力をどのようにエンパワーメントしていくか、そういう視点も入ってくる。

委員

分かった。

もう1個は、「目標3 - 2 子どもが生まれても仕事を続けたい！」の下に、「保育園

待機児童の解消」「学童クラブの充実」と2点あり、後ろに新しく「目標5 ワーク・ライフ・バランス」が出てきている。「子どもが生まれても仕事を続けたい！」という文章を見ていると、これはこのワーク・ライフ・バランスのほうじゃないのかなという感じがしている。分類的に何か目的があれば、御説明をお願いしたい。

事務局

前期の計画では、目標3で「子育てと仕事の両立がしやすい環境づくり」の中に、ワーク・ライフ・バランス的なところと、保育サービスというところを入れていた。今回はあえてワーク・ライフ・バランスというのを取り出したということと、保育のところは、特別に区のきめ細やかなサービスの中に位置づけて、待機児解消などを強力に推し進めているところを、前面に出したいと考えた。ワーク・ライフ・バランスは、少し意識改革みたいなところがあるので、あえて分けてみた。

委員

だとすると、この「目標3 - 2 子どもが生まれても仕事を続けたい！」という表現を変えたほうが良いと思う。

最初、勝手に私が想像していたのは、こっちに入っているのは、全ての家庭のためにという感覚で、あえてシフトをするために、こちらの後ろのワークライフじゃなくて、目標の3に動かしたのかなというふうに思ったりもしていた。

事務局

文言については、内部の会議でもいろいろ御意見をいただいている、今までの行政の何々の促進という言い方から新しい言い方に変えるのは、非常に言葉の持つ意味が様々に受け取られるので、難しいことだと感じている。今、内部の案でこうなっているが、やはり言葉のレベル、言っているところのレベルが、ばらつきがあるという話も出ている。

また、ここの「子どもが生まれても仕事を続けたい！」というのは、だれが主語なのという話が出ている。そこを調整していく必要があるというのは、事務局サイドでも十分認識している。今の御意見は、非常に検討すべき材料だと思っている。

委員

話しながら思い付いた。仕事をしている人と限定するよりも、いろんな事情、例えば介護などもある。それが多分ワーク・ライフ・バランスとすごく関連はしているんだろう。それがこのびっくりマークがついていて、この文体がどうのこうのというのではなくて、変にくるようなタイトルじゃないほうが良いのではないかなと思う。

事務局

具体的な御提案をいただけると、ありがたい。

福富部会長

私も、今の委員の御意見に共感する。例えば、新宿区は幼保一元化をやっている。すると必ずしも保育園は働く場を持っている親御さんたちのためだけではなく。実際にいわゆる専業主婦でも、子どもを預けることも視野に入っているのかもしれないという意味では、確かに仕事を続けたいための保育園というくくりよりも、何か言葉が出てくるといい。

それからもう一つ、ここにいらっしゃる方は違和感ないだろうが、例えば先ほどの「目標3-1 支援サービスはトータルコーディネート」、これは分かるだろうか。分からない人もいるのではないのか。考えてみるとトータルコーディネート、トータルコーディネーターというような言葉があるからいいのかもしれないが、言葉としては、日本語として何か、もう少しいい言葉があるのではないか。

委員

今の関連で言うと、どちらの側で、この報告をまとめるかというのを少し整理しておかないと、主語が曖昧になってくる感じがする。例えば「子どもが生まれても仕事を続けられるように」とか、もしくは「女性そのものが、自分らしく生きられるように」とかというようになくりに。保育園、学童クラブだと、このくくりだけけれども、ちょっとどっちがいいのか私も言えないけれど、例えば女性が自分らしく生きられるために、支援サービスが必要だということも当然あると思う。どうしてもいっぱいいっぱいになっているときに預けて、自分の時間を作りたい、作れば、もう1回自分を取り戻してホッとできる。そんな意味も含めると、ここだけで切ってしまうと、分かりにくいかなというのが一つ。

それから、トータルコーディネートというのは、多分一つのところだけで受けとめましたということではなくて、関連の部署が繋がりながら応援する体制を作るという意味だと思う。そういう意味だと思うので、日本語のほうがいいのかなと。「トータルコーディネート」と言うよりは、横に連携して総合的な応援をするというような表現にしたほうが、分かりやすいような気がする。

委員

親御さんも多様化していると思うが、私も学校に入れるまでの教育、選択肢はたくさんあったが、区立幼稚園を選んだ。やっぱり毎日お弁当を持たせて、9時から2時まで預けて、3時のおやつは家で食べて、その後習い事に行ったり、また公園で遊んだり、ゆったり

したことを選びたかった。仕事はそれまで持っていた。

だけれども、やっぱり仕事をしたいとか、こういうのを見ると何か焦っちゃうというか、この形が理想なのかなと思ってしまう。

福富部会長

保育園に限定する必要はないと思う、それは大きな要因だろうけれども、いろいろな生き方があっていいわけだ。

委員

何か現実としては、例えば長男を育てた頃は、共働きの家庭は小学校で、せいぜい2割だった。それが今半分を超えている。そういう現状からも、この施策が出て来ることを理解して欲しい。

委員

「目標5」のワーク・ライフ・バランスのところ、「男性も変わる！女性も変わる！」、「「くらし」を楽しめるまちを目指す」というところで、男性が変わる、女性が変わるといふ部分は、次世代育成のために貢献はしているが、違う部分も含まれているのかなと感じる。

福富部会長

次の世代にどうあって欲しいか、男も女も固定観念にとらわれないでということを計画に盛り込めないか。

事務局

その辺りを考える時に、男性の育児参加の促進といった言い方がある。もう少し広い書き方がないかなというところから出てきている。今の段階で、これが一番いいという判断ではない。

委員

あと先ほどの「目標3 - 2」のところ、この待機児童と学童クラブというのは、「目標3 - 1」子育て支援サービスという部分に入れてもいいのかなと思う。

福富部会長

上のほうは理念的な部分があって。下は実体的。分けないほうがいいのか。その辺は検討課題である。

委員

若干、1ページ目の右が重複した項目が、多い気がする。

例えば、先ほど後期計画目標1が、教育ビジョンとリンクしているというような話があっ

た。現在もう既に取り組まれているという部分が、具体的にあれば注釈をいただくと、話が進みやすいかなと思った。

委員

1 ページで1点確認させていただきたいのは、「目標3 - 1」のところ、「経済的な支援」がある。これは子育て家庭に対する経済的な支援と理解するが、前期では、そういうことはなされたのか。それを1点教えてほしい。

それから、その下のほうに、「目標3 - 3 特に配慮が必要な子どもと家庭のために」ということで、 から までである。まさに示されているとおりだと思うが、この中でも、重要度合いがあるのではないかと思う。私は が重要と考える。 が になったり、 が になったり、 が4番目だと自分では考えるが、幾つか例示を挙げる時には、重要な事項、緊急的な事項を先に持ってきたほうが、よりいいのではないかと私は思う。その辺の扱いはいかがだろうか。

福富部会長

第1点目だけれども、「目標3 - 1 - 経済的な支援」は前期の中では「目標2 - 4」としてある。それは前期のものを、そのまま後期も掲げるということになっている。

委員

そこで知りたかったのは、具体的な経済的支援がなされたのかである。

事務局

「新宿区次世代育成支援計画・第一次実行計画対応版」を今日は皆様お持ちだろうか。その10ページ、これは17年にこの計画をつくった後、新宿区ではさまざまな施策を進めているので、その間の変化が分かるように、調査の時に送らせていただいたものである。具体的な取り組みで書かせていただいているが、児童手当については、国制度に上乘せして、新宿区では中学生の3年生までを対象にやっている。また、医療費の助成についても、19年10月から就学前までだったものを、子ども医療として中学3年生まで拡大をしている。また、妊婦の健康診査についても、かなりの回数をカバーできるように拡大をしている。あと、幼稚園の保護者の負担金軽減などをやっているということを示させていただいている。

福富部会長

それから2番目の問題は、とても難しいというか、どれが最重要項目なのかということについては、余り共通した等級づけというのはできないのではないかと。確かに、虐待予防が最優先だという考え方もあるかもしれない。しかし場合によっては障害児の問題は、もっと大

きいという御意見もあるだろう。私は、どれが最重要か決めることは、不可能だと思う。考える人の立場、状況、かかわり方によっても変わってくるだろうし、それを区民一般に、あるいは区として、これがというようなことは難しいのではないのかと思う。

委員

先生の言うことは、分かるけれど、仕事を進めるのは人、金、物の話である。すると、限られたものをどう使うかということだろうと思う。投資と効果の話。そういう中において、幾つか課題がある時には、当然に全て出来ない。やはり比重を重くしたり軽くしたり、そういう必要性というのが出てくるのではないかと私は考える。

これだけ大事なことがあれば、中でも最優先でやるんだという、そういう姿勢が必要かなと私は考えたので発言をした。

福富部会長

それは十分分かるが、だからといって、虐待児を全時期の最優先課題にすべきだということには、議論の余地がある。場合によっては障害の問題というのはすごく重いということもあるだろう。では均等にやればいいのかという問題でもないのだろう。

委員

虐待の問題は確かに注目を浴びるので、ニュースでもたくさん見る。それで、一般の方は知るところが多いと思うが、実はあまり報道されていないが、虐待の中にお子さん自体に障害があるというケースも多い。障害児等と家庭の問題というのは、例えば障害児がいて、何らかの形でひとり親家庭になっているということもある。

だから、障害児問題というのは、それだけ広い範囲でいろんな問題を含んでいるということだと思う。どれが大事ということは言えないということ、それは本当にそうだと思う。

福富部会長

第2期の協議会では、子どもの虐待防止という形での提言をさせていただいたので、おのずとそのあたりから区の姿勢というのは、推し量ってもらえないかと思う。でも、やっぱり順番をつけるということになると、これはかなり議論が必要になってくるという気がする。

委員

外国人家庭の虐待のことにかかわっている。虐待児の親が、ほぼ虐待で育ってきて、なかなか自分の子どもを育てられない。そして、実はひとり親になっているというのも、実際に僕は支援してきた。実際、周りにはいっぱいそんな人たちがいるわけで、だからその中で

れがということは、やっぱりなかなか決め切れないと思う。その辺はだから、そういう理解をしていただいたほうがいいと思う。

委員

私は危機管理上、やっぱりそれには異論がある。というのは、虐待というのは少なからず、生命、身体、財産に危険が及んでいる時の話である。それはやっぱり優先すべきというのが私の信念というか、考えである。だから、虐待というのは、通常生活している状態じゃないわけだと思う。だったら優先して、しかるべきかと。ランク付けがいいか悪いかは分からないけれども、私はそういう発想を持つ。

委員

例えば外国籍の家庭の子どもはどうなっているかという、親たちが夜働いていて、子どもが放ったらかしになっている状態の人だって現実にある。それは虐待も含んでいる。だから、子どもの全体の中でいろんなものが含まれている訳で、これだと決めてしまうというのは、ちょっと無理があると思えない。

福富部会長

よろしいだろうか。

ここで議論し出すと、本当にこれは順番づけということになるかと思う。ただ、御確認いただきたいけれど、一応、並列的にこれが並んでいるんだというように御理解いただくしかない。決して を軽視しているということではない。どれが大事だということになると、いろいろ立場があるだろうし、ものの考え方にもよるだろう。では虐待をどう定義するかという、これはもう散々第2期で議論したのだけれども、虐待のどの段階での虐待なのかという時系列的な問題もあるだろうし、切迫した、本当に緊急を要するような生命の危機を感じる問題なのか、いろいろなレベルがあって、一口に虐待といっても、とらえどころは難しいわけである。

そのあたりを考えると、どれも大事な問題で、新宿区としてはこの4つをこれから重点的に考えるという、意思表示だと受け止めていただければいいのかなと、いかがだろうか。

委員

項目立てだけで全く問題ないと思う。何も虐待を一番に出すということは、「ああ、新宿区というのはやっぱり乱れているんだな」という印象を持たれることが、私はむしろ怖い。全部のパーセントを細かく出しなさいと言われたら、障害児の家庭が何%で、ひとり親が何%、と出してもいいが、そういう細かいところまでやらなくていいのではないかな。

福富部会長

前期はたまたま 、 、 、 としていて、後期ではそれを踏襲した。

委員

もう全然、それで問題ないと思う。あとは中身を、例えばどのように書いていくかということだと思う。

委員

先ほど問題になっていた「目標3 - 2 子どもが生まれても仕事を続けたい！」のところだが、ふと思い出したのは、中山区長のお話が出ていて、区長はお子さんを育てるときに、お仕事をしながら保育園とか、学童保育も使いながらやっていたということが出ていた。それはもし、こんなことを言って失礼かもしれないが、お子さんが障害児だったら、今の区長が生まれただろうかと思った。私自身も、やはり仕事を専門職でしていたけれども、障害の重い子どもを抱えていると、本当にドタキャンしなくちゃいけないようなことがある。

実は今、私の子どもは急に発作を起こして医療センターに入院している。ここに出てくるのも看護師さんが非常に協力的で、こういう会議なので出たいからお話ししたら、「ああ、いいですよ。もう、絶対見ていてあげるから」と言ってくれる。つまり、そういう善意に支えられて仕事ができるという側面を、何とかここに入れたいなと私は感じている。

福富部会長

特にそういう御経験の中で、その言葉というのは重いと思う。よくわかった。この言葉はちょっと疑念があったと、まとめさせていただき、次回変えた言葉を整理させていただき、またご意見をいただきたい。

委員

どうしても中学生を持つ親としては、学校での虐待、学校でのいじめが気になる。これは数字にも出てこないと思うし、なかなか教育委員会のほうにも上がって来ていないと思う。学校でのいじめ問題というのは表面化してこないが、現実かなりの数がある。それを入れたい思いがある。適当な文言が今出てこないが、例えば学校を核とした子どもの居場所づくり、後期計画への移行状況があって、その後が、すぽっと後期計画に一文もなくなったというのが、今ざっと見たところある。

福富部会長

前期計画の何処に、位置付けられていたのか。

事務局

権利のところである。

委員

それが大きな目標として「生きる力」の中に入る、入れ込んでいくのかなと思った。「すべての子どもが大切にされる社会」というところ。この社会に限らず、地域社会に限らず「学校」というようなものに入るのかなと。「学校」という言葉が後期計画の中に見えていないという感じが出てきて。やはり小学校でももちろんあると思うのだけれども、中学校のいじめはかなり陰湿で深刻な問題が出ている。御考慮いただければと思う。

福富部会長

今の学校の話は「目標4」では、おかしいだろうか。その中に学校問題で安心して学べる学校という形で盛り込むというのは。

いじめの問題は、子どもの居場所づくりとは、また別の問題だと思う。子どもが安心して過ごせる、学べる場としての環境というのが、家庭も地域もそうだし、ここに入れてはいかがか。

委員

そうだ、環境というところに学校という概念を入れる、学校環境。それは是非お願いしたいと思う。

委員

学校については、同じだが、安心できる子育て環境というのは、幾つか頭出しができる。家庭もそう、地域もそう、学校もそう、それから全体、地域ではなくて、もっと広い社会というような、そういう頭出しをしての子育てでないとおかしいと思う。そういう意味で、やっぱり学校というのは大事かなと思う。

それから、あとよくわからないのは、みんなでという、この「みんな」というのが、どの程度のことまで考えているのか、わかる方がいたら教えていただきたいと思う。

事務局

子どもは家庭だけで育つのではなく、社会全体で育てていくべきだという理念のもとに、それをわかりやすい言葉ということで「みんな」と表現しているもので、概念が正確に伝わるようにという御提案があれば、検討できると思う。

福富部会長

事務局として、資料の一番右に掲げているような文言を考えてはみたけれども、いかがだろうか。元のような形に戻したほうがいいという御意見が強ければそうするし、あるいは真

ん中に幾つかあるけれども、そういうレベルがいいんだとか、皆さん、率直にどのあたりがよろしいか。

委員

前期計画、それから移行の状況、後期計画ということで、今先生示されたわけだが、私はやはり前期計画を踏まえて、現在この案を作っていたと思う。そして、今日もいろいろ御意見が出た。だから、その意見を取り入れて、新しく、後期に向かって進むべきだと私は考える。

ただ、その中において、前と同じでいいのだという考えは、私はおかしいと思う。少なからず、いい方向に持って行くというのが、大事ではないか。そういう意味で後期計画は変更していただいた。また意見が出たものを集約していただいて、その方向で進めていただきたいと個人的には考える。

委員

「目標1」の文言はすばらしいと思っている。子どもの生きる力と、豊かな心を育てるといふ、その次がすべての子どもが大切にされる。前期計画を見てみると、子どもの権利を大切にするとある。だから、権利を大切にするといふと、義務もあるじゃないという話が出てくる。本来、やはり子どもは無条件に大切にされるべきものという事を、新宿から発信できれば、私はすばらしいと思っている。大切にされなければ生きる力が出ない。最も大事なことだと思った。

福富部会長

決して義務をおろそかにするというのではなく、それ以上に子どもは大切にされるべきだという気持ちである。

それでは、今までいただいた御議論をまた整理させていただいて、次回に繋げたい。次回は8月25日になるけれども、文言を変えるべきところを変えることも含めて、新しい構想案を検討させていただければと思う。それでよろしいか。このように今日はまとめさせていただきたいと思う。

大変長時間、しかも御熱心な御議論、そして貴重な御意見ありがとうございます。こういう問題というのは議論し出すと、盛り上がっていったときに、ちょうど時間ということでとても残念だが、どうも不手際が幾つか、多々あったかもしれない。その辺はおわびするとして、次回までに、今みたいな形でまとめさせていただいて、また活発な御議論をお願いしたいと思う。

今期またいろいろと御発言いただけそうで、大変頼もしく思っている。ひとつよろしくお

願います。今日はこれで閉会にする。

もし、先ほどの御意見の中にあつたように、何かこんな文言ということがあつたら、早急に来週中位までに、いただければ対応できると思う。

午後4時00分閉会